

そこが知りたい!

くらしの金融知識

病気や怪我に 備える

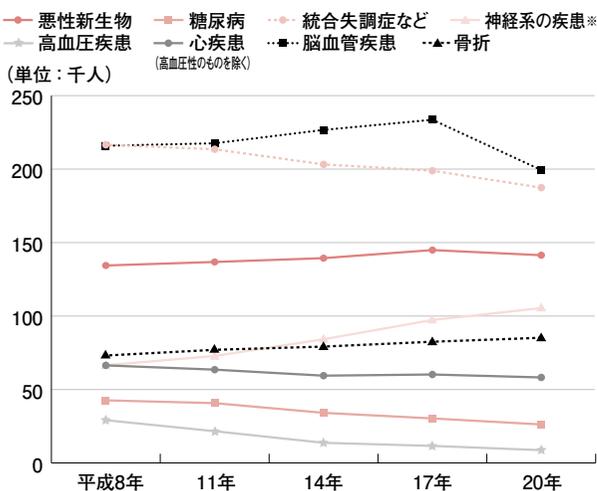
日本人の平均寿命(平成22年)は、男性が約80歳、女性が約86歳。人間が昔から望んでいた長寿社会が到来しています。ただ、長い人生には、色々なことが起こります。私たちは病気や怪我に対してどのように備えておけば良いのでしょうか?今回は、病気や怪我による入院・通院の実態や、医療費負担の軽減制度などを踏まえて、お金の面、普段の生活面でのように心がければよいのかを考えてみましょう。

意外と高い?
入院・通院をする可能性

まずは病気や怪我による入院・通院の実態をみてみましょう。

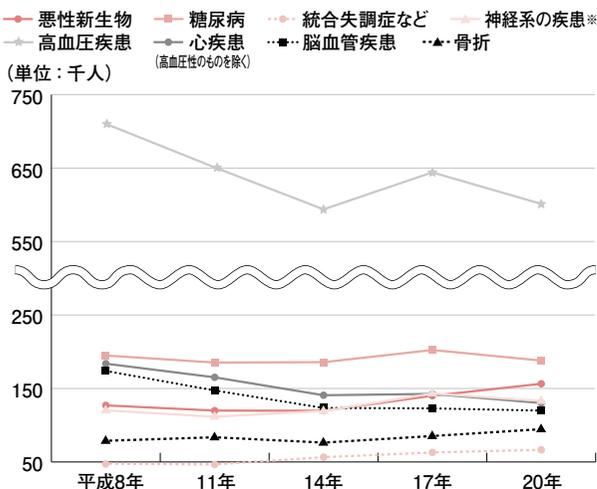
グラフ1は、ある1日の傷病別の推計入院患者数の推移です。死因としてもっとも多い悪性新生物(がん)の推計入院患者数(平成20年。以下の患者数も同じ)は14万1千人で、この10数年間あまり大きな変化はありません。入院患者数の多いのが脳血管疾患や統合失調症等で、それぞれ19万9千人、18万7千人となっています。また、神経系の疾患は10万5千人

■グラフ1: 推計入院患者数(年次・傷病別)



資料: 厚生労働省「平成20年(2008) 患者調査の概況」
※パーキンソン病、アルツハイマー病、自律神経系の障害など

■グラフ2: 推計外来患者数(年次・傷病別)



資料: 厚生労働省「平成20年(2008) 患者調査の概況」
※パーキンソン病、アルツハイマー病、自律神経系の障害など

【監修・執筆】

CFP/1級FP技能士

松浦 建二 (まつうら・けんじ)

1990年青山学院大学卒。大手住宅メーカーから外資系生命保険会社に転職し、個人の生命保険を活用したリスク対策や資産形成、相続対策、法人の税対策、事業保障対策などのコンサルティングを経験。その後、コンサルティング会社設立に参加。現在ファイナンシャルプランナーとして主に個人のライフプラン、生命保険見直し、住宅購入サポートなどの相談業務を行っているほか、FPに関する講演や執筆などを行っている。青山学院大学非常勤講師。執筆・取材協力: 高齢者住宅新聞、週刊エコノミスト、東京海上日動火災、AIGエジソン生命、医薬品・金融業界誌、朝日新聞、日経新聞、読売新聞、共同通信社、すてきな奥さん、AERA、ダイヤモンドZ Ai、週刊ダイヤモンド、日経ヴェリタス、プレジデントなど。

私たちの医療費負担 ～増え続ける国民医療費～

年度	国民医療費	人口1人当り国民医療費	国民所得	国民医療費の国民所得に対する比率
昭和30年(1955)	0.2兆円	2.7千円	7.0兆円	3.42%
昭和40年(1965)	1.1兆円	11.4千円	26.8兆円	4.18%
昭和50年(1975)	6.5兆円	57.9千円	124.0兆円	5.22%
昭和60年(1985)	16.0兆円	132.3千円	260.6兆円	6.15%
平成7年(1995)	27.0兆円	214.7千円	368.9兆円	7.31%
平成17年(2005)	33.1兆円	259.3千円	365.9兆円	9.05%
平成18年(2006)	33.1兆円	259.3千円	375.2兆円	8.83%
平成19年(2007)	34.1兆円	267.2千円	378.7兆円	9.01%
平成20年(2008)	34.8兆円	272.6千円	351.9兆円	9.89%
平成21年(2009)	36.0兆円	282.4千円	339.2兆円	10.61%

資料：厚生労働省「平成21年度国民医療費の概況」
平成12年4月から介護保険制度施行によって介護保険に移行した費用は、平成12年度以降の国民医療費から除かれています

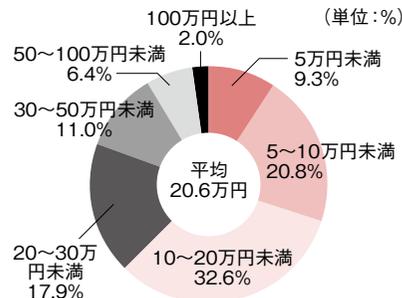
日本の医療費は長期にわたって増え続け、平成21年の国民医療費は36.0兆円にもなりました。人口1人あたりでは約28万円です。平成7年あたりからは医療費が増える一方、所得が伸びていないため、所得に対する医療費比率が高まっています。このまま同じ傾向が続くと、医療費の負担感はより厳しいものになっていきます。

で徐々に増えてきています。入院患者数の総数は139万2千人で日本の人口の92人に1人が調査時点で入院していたことになりました。

一方、グラフ2は、傷病別の推計(外来(通院)患者数の推移です。高血圧性疾患が圧倒的に多く、60万1千人にもなります。外来患者数の総数は686万5千人で、日本の人口の19人に1人が調査時点で通院していたことになりました。

このようにみると、私たちが病气や怪我をする可能性は意外と高々と思っていた方が良さそうです。

■グラフ3：直近の入院時の自己負担費用



資料：生命保険文化センター「生活保障に関する調査」平成22年度

では、実際に入院したとき、いくらぐらいの費用負担になるのでしょうか。生命保険文化センターが「直近の入院時の自己負担費用」について調査したところ、平均は20.6万円となっています。費用の分布をみると、「10~20万円未満」「5~10万円未満」が最も多く、それぞれ32.6%と20.8%を占めています。

次に、主な疾病で入院した患者の平均在院日数をみてみましょう(表1)。例えば、胃の悪性新生物(がん)では、全体の平均で26.8日です。同じ疾病でも、高齢になるほど入院期間が長くなり、男性と女性で入院期間に差が出る場合もあります。このほか、脳血管疾患などのように入院が数カ月わたる疾病もあります。

入院期間、自己負担額はどのくらい？

■表1：退院患者の平均在院日数

(単位：日)

主な疾病	全体	男	女	15~34歳	35~64歳	65歳以上	70歳以上	75歳以上
全体	35.6	34.3	36.7	13.0	29.5	47.7	50.2	54.2
ウイルス肝炎	16.9	17.2	16.6	12.3	13.8	23.7	31.0	39.9
胃の悪性新生物(がん)	26.8	24.1	32.9	19.1	21.2	29.2	31.6	35.9
大腸の悪性新生物(がん)	19.2	18.4	20.4	13.3	14.8	21.7	23.5	26.5
肝及び肝内胆管の悪性新生物(がん)	22.4	20.7	26.2	16.4	17.9	23.7	25.0	27.0
気管、気管支及び肺の悪性新生物(がん)	27.2	26.3	29.2	12.3	23.5	28.8	30.2	33.6
糖尿病	38.6	32.0	47.1	14.8	21.7	53.4	59.6	65.5
統合失調症など	543.4	654.9	443.0	103.8	440.2	1231.6	1353.5	1400.1
神経系の疾患(パーキンソン病、アルツハイマー病など)	74.1	61.2	89.6	43.6	50.8	102.6	109.9	117.4
高血圧性疾患	45.8	25.5	56.9	9.4	18.7	52.4	55.7	59.4
心疾患(高血圧性のものを除く)	24.2	16.7	35.3	13.0	11.2	29.0	32.8	38.2
脳血管疾患	104.7	85.3	125.8	29.8	57.6	118.4	125.1	136.3
喘息(ぜんそく)	12.1	10.2	14.4	15.5	13.3	33.7	36.8	41.4
食道、胃及び十二指腸の疾患	19.6	19.7	19.5	19.8	15.9	21.9	23.3	23.9
筋骨格系及び結合組織(関節など)の疾患	36.0	30.1	40.1	17.0	26.0	45.1	48.3	53.9
腎尿路生殖器系(泌尿器など)の疾患	24.2	23.4	25.1	9.4	13.2	34.8	37.4	40.9

注1：平成20年9月1日~30日に退院した人を対象としたもの。
注2：全体には、年齢不詳を含む。
資料：厚生労働省「平成20年(2008)患者調査の概況」

円未満」「20~30万円未満」の割合が多いですが、「50~100万円未満」「100万円以上」の割合も無視できない大きさです。

もちろん、実際の治療費は、傷

病の種類や治療方法、医療機関等によって大きく異なります。それに伴い、一人ひとりの自己負担額も異なってくることを理解しておく必要があります。

■表2：自己負担限度額（月額）
（70歳未満の場合）

所得区分	1カ月の負担額の上限額	多数回該当の場合 の上限額
上位所得者	150,000円+（総医療費-500,000円）×1%	83,400円
一般	80,100円+（総医療費-267,000円）×1%	44,400円
低所得者	35,400円	24,600円

（70歳以上の場合）

所得区分	1カ月の負担額の上限額		多数回該当の場合 の上限額
	外来		
現役並み所得者	44,400円	80,100円+（総医療費-267,000円）×1%	44,400円
一般	12,000円		適用なし
低所得者	II（I以外）	8,000円	24,600円
	I		15,000円

注1：「総医療費」とは、3割等の自己負担額ではなく保険者が負担する分も含めた全額。

注2：「上位所得者」とは、月収（標準報酬月額）53万円以上などの要件を満たす人。

注3：「低所得者」とは、住民税非課税の人。

注4：「現役並み所得者」とは、月収28万円以上などの窓口負担3割の人。

注5：「低所得者I」とは、判定の対象となる家族全員（健康保険の場合、被保険者と扶養家族）の所得（＝収入－必要経費・控除額）の金額がゼロの人。公的年金については控除額80万円なので、年金収入のみの場合、年金受給額80万円以下であれば、所得金額がゼロとなる。

医療費負担を軽減できる
「高額療養費制度」

以下では、自己負担額を考える際に重要な「高額療養費制度」と「差額ベッド代」、そして、注目されている「先進医療」について、説明します。

高額療養費制度とは、病院や診療所などでの支払いが一定以上の額（自己負担限度額）になったとき、その超えた分の金額が支給

される制度です。負担の上限は、年齢や所得水準によって異なります。例えば、70歳未満で所得区分が「一般」の人の医療費が50万円かかった場合、8万100円+（50万円-26万7千円）×1%＝8万2430円が自己負担限度額となります。そして、窓口支払い分15万円（50万円の3割負担）のうち自己負担限度額を超えた6万7570円が高額療養費として

支給されます。

70歳以上の方には、外来だけの上限額も設けられています。

その他、高額療養費の算定では、左記のような留意点があります。

- 月の1日から末日までを1カ月（暦月）として、診療を受けた各月ごとに計算。
- 同一の医療機関等における自己負担（院外処方代を含む）では上限額を超えないときでも、同じ月の複数の医療機関等における自己負担（70歳未満の場合は2万1千円以上の自己負担のみ）を合算することが可能。この合算額が負担の上限額を超えれば、高額療養費の支給対象となる。
- 一人の1回分の窓口負担では、高額療養費の支給対象とはならなくても、複数の受診や同じ世帯に加入している人（同じ医療保険に加入している人に限る）の受診について、窓口でそれぞれ支払った自己負担額を1カ月（暦月）単位で合算することが可能（世帯合算）。

● 直近の12カ月間に、既に3回以上高額療養費の支給を受けている場合は、「多数回該当」となり、その月の負担の上限額が引き下がる。

● 入院時の食事や差額ベッド代、保険のきかない診療などは高額療養費の対象にならない。

高額療養費制度によって、医療費が高額になったときでも負担がある程度は抑えることができま。健康保険組合によっては、独自の給付（付加給付）を行っている場合もあるので、詳しくは加入している健康保険組合に確認してみてください。

入院するとかかるかも
しれない「差額ベッド代」

標準的な大部屋に入院する場合、公的な健康保険が適用されま。しかし、個室などに入院する場合はベッド代が高くなり、健康保険適用の場合との差額分を自己負担で支払わなければなりません。差額ベッド代（室料差額）が必要になる特別な療養環境の病室の基準としては、「1室当たり4床以下」「1人当たりの面積が6.4平方メートル以上」「プライバシーの確保」「私物の収納設備や個人用の照明・机・椅子の完備」などの要件があります。差額ベッド代がかかるのは必ずしも1人部屋に限らないということに留意しましょう。

■表3：各病院の差額ベッド代の範囲と中央値

		各病院の最も高額な差額ベッド代		各病院の最も低額な差額ベッド代	
		範囲	中央値	範囲	中央値
1人部屋	東京都	189,000円～5,000円	31,500円	31,500円～2,700円	12,550円
	神奈川県	68,250円～3,150円	25,200円	28,350円～1,050円	7,875円
	大阪府	105,000円～3,000円	21,000円	16,800円～1,050円	7,350円
2人部屋	東京都	15,750円～2,000円	6,300円	13,650円～1,575円	5,250円
	神奈川県	10,500円～2,625円	4,985円	10,500円～520円	4,200円
	大阪府	8,400円～2,000円	3,680円	8,400円～525円	3,150円

資料：各病院HPから筆者が調査（2010年10月）
※調査病院数は東京都82病院、神奈川県42病院、大阪府56病院

実際にいくらかぐらいいの差額ベッド代（室料差額）がかかるのか、東京都、神奈川県、大阪府の各病院を調べてみました（表3）。
1日当たり10万円を超えるような高額な部屋もありますが、

中には1～2千円程度の1人部屋もあります。大部屋での入院は、見知らぬ人同士が病氣や怪我による辛い状態で共同生活をしなければなりません。そのため、差額ベッド代がかかっても個室を希望したい人は多いかと思えます。もしも入院した病院の1人部屋が2万円以上の設定しかなければ、例えば、36日間（前述表1、全体の平均在院日数）入院したとすると、差額ベッド代だけで72万円かかってしまいます。入院したときに個室を希望する可能性があるならば、表1と表3のデータなどを参考に想定される差額ベッド代を計算し、その分の金額を備えておく必要があります。

先進医療とは何？

先進医療とは、厚生労働大臣が定める高度で最先端の医療技術を使った治療のことです。

先進医療の治療費には公的な健康保険が適用されず、全額自己負担となります。費用は医療技術の種類によってさまざまですが、300万円近い額となるものもあります。健康保険が適用される治療との併用も認められているので、

先進医療技術の種類や内容は変動します。先進医療については将来健康保険給付の対象にするべきかどうかの評価が行われます。安全性や有効性が確認できたら、健康保険が適用になります。また、新たに評価が必要な医療技術が出てくれば先進医療に加わりま

■表4. 先進医療技術に係る費用例

技術名	年間実施人数	1人当たりの費用
陽子線治療	1,225人	約278万円
重粒子線治療	729人	約298万円
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建	2159人	約52万円
腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	2人	約76万円
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援（前立腺がん）	157人	約67万円

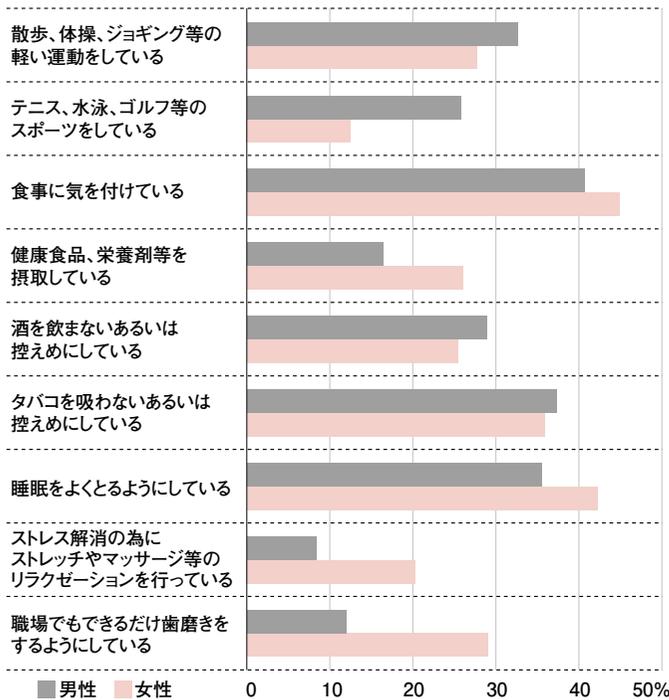
資料：中央社会保険医療協議会「平成22年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告について」

備えとして大切なこと

病氣への備えとして大切なことは、「早期発見」「正しい知識」「治療の選択肢の確保」の3つです。早期発見の大切さについて、がん（悪性新生物）を例に挙げて説明します。がんの広がり具合の段階（4段階。後になるほどがんが進行）に患者が診断された時点から5年後に生存している率をみると、乳がんでは、98.9%→93.3%→71.3%→31.4%となります。胃がんでは、98.7%→72.7%→44.3%→7.0%となります。早期発見するには、定期的な健康診断やがん検診等を欠かさずに受診することが大事です。

今や日本人の2人に1人ががんになると言われています。がんにならない努力をすることはもちろんのこと、ある程度はがんになることも前提として備えておく必要があります。がんの治療には手術療法、放射線療法、化学療法などがあります。患者自身にとって最適な治療を選択するには、信頼できる医師のアドバイスとともに、患者側にも病氣や治療方法に関する知識が求められます。病氣になってから

■グラフ4：健康のために普段実施していることの内容（複数回答）



資料：厚生労働省「平成19年労働者健康状況調査結果の概況」

慌てるのではなく、普段から書物やネットで情報収集したり、セミナーへ参加したりして、正しい知識を得る習慣を付けておくことも大切です。

将来、仮に重い病気になったとき、高額な先進医療も選択肢として確保しておくならば、それ相應の経済的備えが必要です。そこまではいかずとも、ある程度安心できるだけの備えはしておきたいものです。主な備えとしては、貯蓄や医療保険等への加入が挙げられ

ます。貯蓄での備えが十分とはいえない場合は、保険料の支払いが必要にはなるものの、医療保険やがん保険などを上手に活用することも検討してみましょう。

医療保険については、本誌17頁の「老後に備える」で取り上げているので、参照してください。

普段の生活での心掛け

健康のための生活習慣を積み重ねることも、病氣や怪我への備えに

●自治体の医療費助成

各自治体には子どもや障害者、ひとり親家庭への医療費助成や、難病などへの医療費助成制度があります。子どもの医療費助成では、子どもが小学校や中学校を卒業するまで（中には高校を卒業するまでの場合もあり）、入院や通院での医療費の自己負担割合3割分（小学校就学前は2割分）を助成してもらえます。助成してもらう際に一部負担金が必要だったり、親の所得に制限があったりするなど、自治体によって内容はかなり異なります。医療費助成の種類や詳細については居住地の自治体へ確認してみてください。

●医療費控除制度

確定申告によって税負担を軽減できる医療費控除制度があります。納税者の個人的事情を加味してくれる所得控除の一つで、所得金額からかかった医療費を控除できます。課税される所得が減るので、結果として納める税額が減ることになります。医療費控除額は「実際に支払った医療費の合計額－保険会社から受け取った給付金などの額－10万円（その年の総所得金額等が200万円未満の人は総所得金額等の5%）」で計算します。控除の対象となる要件が細かく決められています。詳しくは国税庁のHPで確認できます。

なります。

グラフ4は健康のために普段していることを調査したものです。

一番多い回答は「食事に気を付けている」で、「タバコを吸わない」とか「睡眠をよくとる」などの回答がそれに次いでいます。男女別に見ると、男性はスポーツをしているとの回答が多く、女性は職場での歯磨きやマッサージ、健康食品の摂取などの回答が多くなっています。因みに、60歳以上の男性は「散歩、体操、ジョギングなどの軽い運用をしている」割合が57・6%

と男性全体の平均（32・6%）よりかなり高く、足腰が衰えないよう努力している姿がうかがえます。

自分にあった健康法を見つけて、早速今日からでも始めてみましょう。

若いうちは水や空気のようにあって当たり前だった健康も、やがて簡単には保つことができなくなってくるものです。ある日、突然病氣や怪我に見舞われたときのために、今できることが何か考え、安心できる備えをしておきましょう！